

体験！発見！ジオパーク(秋編)



1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

室戸ユネスコ世界ジオパークを構成している自然や文化、産業について学ぶ体験活動を通して、大地の誕生や生命の営みについての興味・関心を高める。

○ 実施期間

平成30年11月23日(金)～平成30年11月25日(日) 2泊3日

○ 対象者・参加者数(人数/定員)

小学4年生から6年生までの児童 26名/25名

○ 活動プログラム

11/23(金)	11/24(土)	11/25(日)
9:30 はりまや橋 観光バスターミナル発	6:30 起床・洗面・清掃	6:00 起床・洗面・清掃
10:40 JR阿波海南駅発	7:30 朝のつどい	7:30 朝のつどい
12:00 室戸ジオパークセンター着	7:45 朝食【食堂】	7:45 朝食【食堂】
12:10 昼食【弁当】	9:00 吉良川炭工房 見学 ・炭窯の見学等	8:45 退所点検
13:00 開講式	12:00 昼食【食堂】	9:00 学習のまとめ
13:30 室戸ジオパークセンター見学	13:00 炭焼き体験 ・窯出し見学、体験	11:00 成果発表
14:45 室戸ジオパークセンター発	15:30 炭を使った工作 ・炭の箸置きづくり	12:00 昼食
15:00 佐喜浜町 土佐備長炭資料館 ほのぼの館見学	17:00 タベのつどい	13:00 閉講式
16:00 自然の家へ移動	17:15 夕食【食堂】	13:30 自然の家発
16:30 入所オリエンテーリング	18:45 班タイム	15:30 JR阿波海南駅着
17:00 タベのつどい	20:00 入浴	16:00 はりまや橋 観光バスターミナル着
17:15 夕食【食堂】	21:00 自由時間	
18:45 班タイム	22:00 就寝	
20:00 入浴		
21:00 班会		
21:30 就寝準備		
22:00 就寝		

2. 活動の様子

<1日目>

昼食と開講式の後、室戸ジオパークセンターを見学し室戸市内における土佐備長炭づくりの事について学習した。佐喜浜町の土佐備長炭資料館ほのぼの館へ移動し炭の見学をした。ほのぼの館の杉本正一郎さんに室戸の炭づくり、炭の良さ、炭づくりの工夫や苦労、これからの炭づくりなどをお話していただいた。子供たちはほのぼの館に展示されている炭を見て、炭が様々なものとして日常生活に利用されていることを知り炭についての理解を深めていった。



また、実際に炭窯を目にして、炭ができるにはたくさんの労力が必要であることも知ることができた。夜は班会で、一日の振り返りを行った。炭窯見学の感想を話すことで友達が炭についてどう感じたかを知ることができ、仲間との絆を深めることができた。

<2日目>

午前中は、バスで吉良川炭工房に行き仙頭博臣さんの炭窯を見学した。仙頭さんから備長炭ができる工程を聞いたり、質問をしたりしていた。備長炭が高い値段で買われていることを知りびっくりしている子供たちが多かった。また、仙頭さんから備長炭をプレゼントしてもらった。子供たちは、備長炭をたたいて、きれいな金属音を楽しんでいた。午後からは、吉良川町の炭玄に行って、炭の窯出し体験を行った。窯から



出てきた真っ赤な炭を見て感動している子供たちの姿が見られた。窯出しを行う時は、「すごく熱かった。」と言いながら全員の児童が体験することができた。炭ができるには大変な苦労があることが



分かったようだ。窯出し体験後、自然の家に帰って備長炭の箸置きづくりを行った。子供たちは、手が真っ黒くなりながらサンドペーパーを使って備長炭を磨いていた。出来上がった備長炭の箸置きを見て喜んでいました。夕食後、班タイムで炭窯見学・体験の感想やメモの整理をした。子供たちの中には、A4の紙に何ページもメモを取っていた。改めて、炭の良さや不思議さを振り返ることができた。

<3日目>

最終日は、班ごとに炭について学んだことや感じたことを模造紙にまとめた。子供たちは、室戸市の炭の歴史、炭ができるまでの工夫や苦労、備長炭の箸置きを作ったの感想など、協力し合いながらまとめて書いていた。子供たちの中には、模造紙にたくさん書きたいことがあって悩んでいる場面も見られた。出来上がったまとめを見たが、いろいろな視点で炭のことについてまとめることができていた。



模造紙にまとめることが終わったら、班ごとに発表をしてもらった。発表者の中には、「炭づくりは大変だなあ。」

「炭焼き体験をして炭を大切にしようと思った。」「炭のことがよく知れて、炭博士になれてよかった。」と感想を述べていた。班でまとめたものは室戸世界ジオパーク

センターで展示をしていただけのようになった。最後に、炭づくりで必要なことは自然を大切にすることであるとい

うことを子供たちは学ぶことができた。今回の事業をきっかけに自分の身の回りの様々な物に対して興味・関心を持って行ってほしいと願っている。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・この三日間で、炭の大切さがわかり勉強になりました。
- ・私は、このキャンプに参加して炭を大切にしようと思いました。
- ・窯出し体験をして、職人さんは熱い場所でずっと作業をしているのですごいと思いました。
- ・炭づくりは大変ですごい歴史があることがわかりました。
- ・炭について教えてもらったり、体験させてもらったりしてよかったです。
- ・窯から炭を運ぶ時はとても暑かったです。いい経験ができました。
- ・私たちは、はじめは炭についてよく分からなかったけど、今回ほのぼの館や吉良川の炭工房に行って、炭についてよく知れました。これからも、炭について少しずつ勉強していきたいと思いました。



○ 事業の成果

- ・今回の事業は、もう一つの室戸の歴史を作ってきた「炭」をテーマに体験活動を多く取り入れたプログラムで行った。参加した子供たちは、炭は知っているが、炭がどのようにできて、自分たちの生活の中でどのように活かされているか分からない。今回の事業を通して、炭に対しての愛着や素晴らしさを感じたり体験したりすることができた。また、炭づくりの工夫や苦勞を考えることができた。これから様々な仕事を見学したりすることがあると思うが、仕事をしていく中ではいろいろな苦勞などもあるが、何かを最後までやり遂げることでの達成感や満足感も生まれてくることも感じることもできた。
- ・班活動を通して、主体的・対話的な学びができた。自分の思いや考えを伝えることの大切さも考えることができた。



○ 事業の課題

- ・今回の事業は、自然の家の炭窯を使っての体験を行う予定であったができなくて内容を変更して行った。どのようにすればより良い炭窯体験を子供たちにさせることができるか考えていく必要がある。
- ・今回は、炭工作で備長炭の箸置きを作ったが、子供たちは炭工作をすごく楽しみにしていた。炭を使った工作の種類などを増やしておく必要がある。

